

西部清掃工場更新事業の概要

1 目的

老朽化が進んでいる西部清掃工場について、運営・維持管理期間を令和 11 年 3 月までとし、同一敷地内の更新用地に新たな清掃工場を整備するもの。

本事業を進めることで、環境負荷の少ない循環型社会の構築に向け、将来にわたり安定したごみの適正処理を行い、隣接する水泳場に安定した余熱供給を行うことでエネルギーの地産地消を進める。

2 事業スケジュール

	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	
南部清掃工場									
⇒天竜清掃工場		稼働開始							
現西部清掃工場									
⇒更新工場							稼働開始		

2 配置図



3 基本方針

- (1) 安全・安心で信頼される施設
- (2) 環境負荷の低減が可能な施設
- (3) 低炭素化に資する施設
- (4) 災害発生時も安全が確保された施設
- (5) 地域と調和し、環境学習が充実した施設
- (6) 施設の延命化・経済性に優れた施設

4 事業内容

- (1) 事業方式 DBO 方式
⇒Design (設計)、Build (建設)、Operate (運営) の略称
⇒官民連携による民活手法である PPP/PFI 手法の一種
⇒市が資金調達し、市が所有権を有したまま、施設の設計、建設、維持管理及び運営を民間事業者に包括的に委託する方式
⇒民間のノウハウを生かすことで良質な公共サービスを低コストで実現
- (2) 事業期間
【設計・建設】 令和 7~10 年度 (約 4 年間)
【運営】 令和 11~30 年度 (約 20 年間)
- (3) 施設規模 417t/日 (うち下水汚泥 18t/日) ※139 t/日×3 炉
- (4) 処理方式 ストーカ式またはシャフト炉式
⇒ストーカ式 : 階段状に配置された火格子段が前後に駆動することで、ごみの供給、攪拌をしつつ完全燃焼する方式
⇒シャフト炉式 : ごみとコークスを炉の頂部から投下し、熔融炉内で、熱分解・ガス化から熔融まで行う方式
- (5) 概算事業費 最大 779.3 億円 (設計・建設費、運営費等含む) ※令和 4 年 6 月時点
- (6) コンセプト
 - ・ ToBi0 へのエネルギー (電気・蒸気) 供給の継続
 - ・ ごみ処理に伴う二酸化炭素排出量の削減
 - ・ 副生成物の全量資源化による最終処分場の延命化

5 今後の予定

⇒別紙「事業者選定の流れ」参照